

【本市教育の目標】

〈教育プラン〉思いやりの心をもつ、自立した子どもをはぐくむ

【校訓】 明朗 清新 協力

《学校教育目標》心身ともに健全で、一人一人が生き生きと輝く子どもの育成

本校の校訓「明朗・清新・協力」の願いに則り、「知徳体」をすべての教育活動で取り組む
(知) 「確かな学力」を身に付け、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成に努める
(徳) きまりを守り、基本的な生活習慣を形成し、自他の生命を尊重し、人を大切にする「豊かな心」と思いやりのある生徒の育成に努める。
(体) 心身ともに健康で、たくましい生徒の育成に努める。

〈めざす学校像〉

- 1 生徒にとって楽しい学校
- 2 保護者にとって安心な学校
- 3 教職員にとってやりがいのある学校
- 4 地域の方々にとって信頼できる学校

〈めざす生徒像〉

- 1 授業を大切にする生徒
- 2 きまりを守り、責任をもった言動に努め、進んで挨拶できる生徒（明朗）
- 3 自他の生命を大切にし、お互いの人権を尊重し合える生徒
- 4 将来の夢や目標をもち、困難に負けず、自らその理想の実現に向けて努力する生徒（清新）
- 5 思いやりの心をもち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒（協力）

〈めざす教師像〉

- 1 教育公務員という全体の奉仕者としての使命を自覚し、社会常識と高い見識をもち、市民や保護者の信頼に応える教師
- 2 生徒とのふれあいを大切に、豊かな教育的愛情をもち、思いやる温かさとともに、厳しく指導できる教師
- 3 自己の力量を高めるために、絶えず研修に努める、学び続ける教師

〈本年度の重点目標〉

- 1 確かな学力の向上と**体力の充実**
- 2 豊かな心を育む教育の充実（**自己肯定感の高まりを求めて**）
- 3 **積極的**生徒指導の充実
- 4 キャリア教育の推進
- 5 特別支援教育の推進
- 6 組織的・機動的な学校運営と活気あふれる職場づくりを推進
- 7 長欠・不登校生徒・保護者への個に応じた丁寧な支援

令和5年度 北九州市立南小倉中学校 学校経営方針

北九州市立南小倉中学校
校長 園山 浩

1 本校教育の基本的な考え方

学校教育は国民の信託に基づくものであり、保護者や地域住民の期待と信頼に応える必要がある。実施に当たっては、法令（教育基本法、学校教育法、学習指導要領等）及び北九州市の教育施策、指導の重点に則り、公教育の立場を踏まえた、学校経営を推進する。

教職員は、より良い公教育の具現化を目途に、「一人一人に居場所があり、一人一人に『生きる力』をはぐくむ学校教育の創造」を目指して、「学校の教育力⇒『学校力』を強化し、組織としての機能を一層充実させ、子どもたちの『人間力』を豊かに育てること」を探求する。

2 学校教育目標

心身ともに健全で、一人一人が生き生きと輝く子どもの育成

～^{やさしく}優しく ^{ひたむきに}直向きに ^{たくましく}逞しく～

【校訓】 明朗：生徒が安心して楽しく学べる明るい学校

清新：困難に負けず、新しい希望をめざし、前進する学校

協力：自分の責任を自覚し、互いに助け合っていく学校

本校の校訓「明朗・清新・協力」の願いに則り、「知徳体」をすべての教育活動で取り組む

(知) 「確かな学力」を身に付け、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成に努める

(徳) きまりを守り、基本的な生活習慣を形成し、自他の生命を尊重し、人を大切にする「豊かな心」と思いやりのある生徒の育成に努める。

(体) 心身ともに健康で、たくましい生徒の育成に努める。

3 学校経営方針

○学校は生徒の人格形成の場であり、豊かな心をもち、明るく支え合い、感動を分かち合う人間性の育成を図る。時を守り、場を清め、礼を正すなど自ら正しく判断し、責任感のある人間性の育成を図る。

○全職員でチーム学校として、組織的、計画的に校務に参画するとともに、教職員相互の連携を円滑に行い、学校教育の質を高める。

○「確かな学力」の向上に向け、「わかる授業づくり5つのポイント」を活用し、授業改善に取り組み、学力・体力の向上を図る。

○開かれた学校づくりを推進するために、保護者、地域、関係機関等との連携を進め、自己点検、自己評価、外部評価を学校経営に活かす。

○小中一貫・連携教育を推進し、9年間を見通した連続性、系統性のある学習指導、生徒指導を構築する。

○特別な教育的支援を必要とする生徒に対する校内支援体制の充実を図る。

4 めざす学校像、生徒像、教師像

明るく活気に満ちた生徒、人間性豊かで前向きに頑張る教師、それらを取り巻く清潔で美しい環境、この三つが調和すれば、学校が組織的に機能し、保護者、地域の信頼を得られ、教育効果が高まると考える。

○めざす学校像

- ① 生徒にとって楽しい学校
- ② 保護者にとって安心な学校
- ③ 教職員にとってやりがいのある学校
- ④ 地域の方々にとって信頼できる学校

○めざす生徒像

「当たり前前を当たり前前にする」生徒を目指す。

- ① 授業を大切にしている生徒
- ② きまりを守り、責任をもった言動に努め、進んで挨拶できる生徒（明朗）
- ③ 自他の生命を大切にし、お互いの人権を尊重し合える生徒
- ④ 将来の夢や目標をもち、困難に負けず、自らその理想の実現に向けて努力する生徒（清新）
- ⑤ 思いやりの心をもち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒（協力）

○めざす教師像

- ① 教育公務員という全体の奉仕者としての使命を自覚し、社会常識と高い見識をもち、市民や保護者の信頼に応える教師
- ② 生徒とのふれあいを大切に、豊かな教育的愛情をもち、思いやる温かさとともに、厳しく指導できる教師
- ③ 自己の力量を高めるために、絶えず研修に努める、学び続ける教師

5 本校の重点目標 ⇒ ※コロナ対応については、令和4年度までの取組を継続・徹底すると同時に令和5年度5月初旬、5類移行後の措置に対応する。

(1) 「確かな学力」の向上と体力の充実を図る

- ① 授業規律確立（「チャイム席、始業と終業の挨拶、正しい姿勢と聞く態度、学習環境の整備」）のため、全職員で南小倉中学校授業ルールの定着に取り組む。
- ② 一時間一時間の授業を大切に「わかる授業」を推進するため、南中スタンダードを実践し、授業改善に努めるとともに、校内外の環境整備に取り組む。
- ③ 令和2年度までの研究指定にて、取り組んだ保健体育科の授業改善を今後に活かし、全教職員で現行学習指導要領が示す内容についての理解を深め、授業力、学校力の向上、適正な評価の確立に努める。また、授業・体育的行事・部活動等を有効活用し、学校全体で運動習慣の定着及び生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に結びつく（知識を含む）体力の充実に取り組む。
- ④ 授業改善ハンドブック等の活用、並びに授業におけるPC及び、タブレット等のICT機器を積極的に活用する。【可能な限り、オンライン授業配信を実践し、一層の充実を目指す。】
- ⑤ 基礎学力の定着・向上を図るため、補充学習や自主学習ノート等の取組を実施し、家庭学習習慣の確立に努めるとともに、図書館の活用等の読書活動の充実を図る。
- ⑥ 各教科で年間指導計画や評価規準を作成し、学習指導要領に基づく指導と評価の一体化に努める。
- ⑦ OJT（教職員相互の学び合い）の取組を推進し、指導力向上を図る。
- ⑧ 長欠・不登校生徒の学力補充・進路支援を目途に、ステップアップルームの効果的活用を推進する。
【市教委嘱】長期欠席対策研究モデル校事業（第2期）

(2) 心豊かな生徒をはぐくむ教育の充実（自己肯定感の高まりを求めて）

- ① 「いじめ」については「人として絶対に許されない」という認識に立ち、「命」を大切にする視点で、学校をあげて即日対応に取り組む。
- ② 集団の一員としての自覚と愛校心の高揚を図るため、学校行事、体験活動、生徒会活動等の充実に努める。

- ③ 健康で安全・安心な生活を送るため、自分自身だけでなく、他人の大切さも認めることができる人権感覚を育てるとともに、学校給食を生かした「食育」指導を推進する。
- ④ 心豊かな生徒をはぐくむため、道徳科の計画的で確実な実施と指導内容の充実を図るとともに、「新版いのち」等を活用した人権教育の推進に努める。また、生徒のコミュニケーション能力を高め、人間関係を調整する能力や技術を身につけさせるため、学級活動等の時間に「北九州子どもつながりプログラム」（北九州市対人スキルアッププログラム）を計画的に実施する。
- ⑤ 部活動を通して、礼儀やマナーを重んじるなど、人間力の育成に努めるとともに、適正な指導及び運営に努める。
- ⑥ 生徒の心の変容に係るすべての活動や平素の声掛け等を通じて、全生徒の自己肯定感の高まりを追求していく。

(3) 積極的生徒指導の充実を図る

- ① 目標達成のため、全職員で次の実践（凡事徹底）に取り組む。
「当たり前のことを当たり前でできる生徒」を目指す。
 - 時を守る（時間厳守、チャイム席）
 - 場を清める（掃除の励行、環境美化）
 - 礼を正す（あいさつ、「ハイ」という返事、言葉遣い、正しい服装）
- ② 組織的・機動的な生徒指導体制の確立のため、生徒指導委員会の有効活用と、教師と生徒とのあたたかい人間関係に基づいた生徒指導を推進する。
- ③ 生徒指導の3つの原則を徹底する。
 - 危機回避 ※「先手を打ち、問題行動が生じない状況作り」
 - 初動が命 ※「その日にあったことは、その日に対応・処理を原則とし、初期対応を慎重かつ丁寧」
 - 危機管理の「さしすせそ」最悪を想って、慎重にかつ素早く、誠意をもって、組織で対応と「報告・連絡・相談・事後の確認と記録」
- ④ 生徒会執行部や専門委員会活動の活性化を図り、生徒会活動を充実させる。
- ⑤ いじめや新たな不登校を生まない教育実践の充実を図り、虐待等では生徒が発するサインを見逃さず、学校の組織を上げて未然防止・早期発見・早期解決に努める。
- ⑥ 教育相談・ケース会議等を活用し、カウンセリングマインドの視点で、生徒・保護者の目線（困り感）に立った生徒理解に努める。
- ⑦ 長欠・不登校生徒への個に応じた支援の充実やステップアップルームの有効活用、関係機関との連携を強化し、当該生徒・保護者に、寄り添った丁寧な対応に努める。※ケース会議を有効に活用する。

(4) キャリア教育の推進を図る

- ① 小中一貫・地域連携教育の効果的な取組を実践し、児童生徒の育ちの連続性を意識した教育活動を実践する。
- ② 社会的・職業的自立に向けた基盤となる能力や態度を育成する。
- ③ 計画的・組織的なキャリア教育を展開し、自己実現を図る資質を育成する。
- ④ SDGsの視点を踏まえた教科等横断的な学びを推進する。

(5) 特別支援教育の推進を図る

- ① 全校体制による特別支援学級の指導の充実を図る。
- ② 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒一人一人の教育的ニーズに応えるため、校内研修の充実と関係機関との連携を深める。
- ③ 個別の教育支援計画作成と個別の指導計画作成を促進し、個々の生徒の生活面や学習面の向上を目指しケース会議を開催するなど、適切な指導や支援を組織的に行う。

(6) 組織的・機動的な学校運営と活気あふれる職場づくりを推進

- ① 機動的な学校運営を行うため、運営委員会や生徒指導委員会等を有効に活用する。
- ② 明るく活気あふれた職場づくりを推進するため、“チーム南小倉”として力を結集し、何事にも協働意欲のもと校務運営を推進するとともに、学年間の情報の共有化等、日常の報告・連絡・相談を(教頭・主幹教諭へ)積極的に行う。
- ③ 心と体の健康管理に努め、ワークライフ・バランスを推進する。
- ④ 教育公務員としての使命と責任を深く自覚し、綱紀粛正に努める。(個人情報等の管理・セクハラ・体罰・不適切な発言・飲酒運転等の防止他)
- ⑤ 効率的で正確な事務処理を行うため、校務支援システムの活用を推進するとともに、定期的に事務改善会議を行う。

(7) 長欠・不登校生徒・保護者への個に応じた丁寧な支援

- ① 教育相談・ケース会議等を活用し、カウンセリングマインドの視点で、生徒・保護者の目線(困り感)に立った生徒理解に努める。【(3) —⑥と重複】
- ② 長欠・不登校生徒への個に応じた支援の充実やステップアップルームの有効活用、関係機関との連携を強化し、当該生徒・保護者に、寄り添った丁寧な対応に努める。※ケース会議を有効に活用する。

6 その他

(1) 学校図書館教育の推進

- ① 学校図書館職員やブックヘルパーと連携して学校図書館の環境整備に努める。
- ② 生徒会専門委員会の活性化を図り、利用しやすい図書館運営に努める。
- ③ 読書に親しみ、習慣化が図られるよう蔵書や新刊の整備に努め、図書館の活用や生徒の利用数を増やす。
- ④ 「子ども読書の日」の活動や朝読書の導入など、本に親しむ取り組みを計画的に充実させる。

(2) 健康・安全教育の推進

- ① 新型コロナウイルスの感染拡大防止に努める。
- ② 生徒、教職員の健康維持増進に努める。(内科検診、定期健康診断等の適切な実施と健康相談)
- ③ 生徒指導部を中心に全教職員が、教育活動全般にわたる健康・安全教育の推進にあたり、事故発生時には迅速かつ適切に誠意をもってあたる。(初期対応の徹底に努める)
- ④ 薬物乱用、喫煙防止等健康教育を徹底し、生徒の健全育成に努める。
- ⑤ 学校給食を生かした「食育」指導を推進する。
- ⑥ 避難訓練・防災訓練等を計画的に実施する。(自分の命は自分で守る)

(3) 国際社会に貢献できる能力と実践的態度を育成する国際理解教育

- ① 学校における教育活動を通して、日本人としての自覚をもち、我が国の伝統や文化に誇りをもち、併せて諸外国の文化を理解し、人間尊重の精神や共に生きようとする実践的な態度や資質を育成する。

(4) 情報化社会に対応した情報教育

- ① タブレット・コンピュータ等を有効に活用し、生徒のコンピュータ・リテラシーの育成に努める。
- ② 携帯電話やPC等によるトラブルを予防するための情報モラルアップを図り、保護者へも啓発する。(他人を傷つけたり迷惑を掛けたりしないスマホ、ライン等の使い方やルールについて)
- ③ 夜10時、スマホ、ケータイの電源OFF運動に努める。

(5) 「校支援システム」の活用とスキルアップ

- ① ICTサポーター等の指導のもと校内研修の充実を図る。

〈本年度の重点〉

- 生徒の自己肯定感の高まりへ結びつく教育活動の推進
 - ・自己決定力の向上や自己存在感・共感的人間関係を高め、表現力の向上に結びつく授業や行事等を工夫する。
- 保護者や地域の方々から、より安心・信頼される学校づくり